

## 環境科学科

### 自然環境の保全を目指し

### 生きものの生息調査



「たくさんの生きものが共存」

#### 清見 飛騨高山高生が生息調査

高山市の飛騨高山高校環境科の生徒が十六日、高山国道事務所が同市清見除雪センターの裏に整備した池や野原で、水生生物や昆虫の生息調査をした。

同センターは自然環境の保全を目指し、約八千平方メートルの敷地で雑木林や池を管理。中部縦貫自動車道の高山西インターチェンジを建設した際に伐採した根株を

植えたり、道路から雨水が周辺地域に流れ過ぎないように調整したりしている。これまで約三百種の生物を確認しており、チョウだけでも三十種を超える。

二〇一〇年からは毎年、同科の実習を受け入れている。この日は二年生二十人が、網で二時間ほど生物を採集。アカハライモリやドジョウなど十種の水生生物と、シオカラトンボ、モンシロチョウなど約十五種の昆虫を見つけた。吉屋颯太さん(二)も「小さい池や林でも、たくさんの生きものが共存していた」と驚いていた。(平田志苑)

虫捕り網で昆虫を追う生徒たち＝高山市清見町で